

① 調査概要

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象学年（本市）

小学校6年生 458名（19校）
中学校3年生 476名（6校）

3. 調査の内容

① 教科に関する調査（小6：国語、算数）（中3：国語、数学、英語）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等。
- ・調査問題では上記の2点を一体的に問うこととする。
- ・国語、算数・数学は冊子を用いた筆記方式で実施。
- ・中学校英語は、生徒が活用するICT端末を用いた文部科学省CBTシステムによるオンライン方式で実施。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査（ICT端末等を用いたCBTで実施）



丹波市では、各学校において、調査結果の分析を行い、各学校の成果と課題を踏まえた授業改善策をまとめ、それをもとに、さらに授業改善を進めます。12月には市独自で学習定着度調査を実施するなど、継続的な検証改善サイクルにより、引き続き学力向上に取り組めます。



② 教科に関する調査（国語）

1. 小学校国語



文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに成果が見られました。

情報と情報との関係について理解することに課題が見られました。



2. 中学校国語



目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することに成果が見られました。

語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題が見られました。

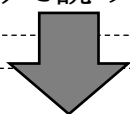


3. 課題の見られた問題例

【2二】考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる問題（小学校国語）

【課題】

- 文章全体のテーマや各構成部分の内容に着目しているものの、各構成部分の役割・関係性を十分に捉えられていないことが考えられます。誤答を見ると、文章中の叙述ではなく、自分の経験や感覚を基に判断している傾向が見られました。
- 文章全体の構成を踏まえ、各構成部分の役割や、考えとそれを支える具体例(理由)との関係を関連づけて読み取ることに課題が見られました。



【今後の学習の中で】

- ☆見出しや問いかけ、接続語などに着目し、「この構成部分では何を伝えようとしているのか」「前後の構成部分とどのようにつながっているのか」を考える場面を設定します。また、文章全体の構成を図や表で整理しながら、考えと具体例・理由と関係を捉える授業づくりを進めます。
- ☆文章を読んで捉えた表現の工夫を、自分の文章を書く場面で生かす学習を取り入れます。例えば、抽象的な表現に具体例や理由を書き加えたり、お互いの文章を推敲したりすることで、読むことと書くことを往還しながら、文章の構成や表現への理解を深められるよう取り組みます。

② 教科に関する調査（算数・数学）

1. 小学校算数



二つの表から、誤りのある項目を見つけ、その根拠を数と言葉を用いて記述することについて成果が見られました。

直方体の箱の形を構成する面や、体積の意味について理解することについて課題が見られました。



2. 中学校数学



同類項の意味を理解したり、反比例の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めたりすることについて成果が見られました。

問題解決の方法や度数分布多角形の特徴を基に判断すること等について、数学的に説明することに課題が見られました。

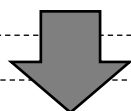


3. 課題の見られた問題例

【2(2)】百分率で表された割合(1.5倍)と比較量(赤いテープの長さ)から、基準量(白いテープの長さ)を求める問題(小学校算数)

【課題】

- 「1.5倍」を「基準量より1.5目盛り分多い」と捉えた児童が4割を超え、白いテープの長さである基準量(1倍)を基に考える倍の概念が十分に形成されていませんでした。
- 1つ分や1倍といった基準となる「1」を正しく捉えられていないため、量や関係性の意味が理解できず、計算式へのあてはめや感覚的な足し算などにたよってしまうという傾向が見られます。



【今後の学習の中で】

- ☆「1.5倍」など小数倍を感覚的に処理させないよう、基準量を図や言葉、テープ図や数直線図で表し、「何を1としているのか」を考え、構造を捉えさせる学習場面を設定します。また、異なる単元でも共通する考え方を繰り返し扱い、場面が変わっても活用できるような授業・単元づくりに取り組みます。

② 教科に関する調査（英語）

1. 中学校英語（聞くこと・読むこと・書くこと）



身近な文章を読み、概要を捉えることについて成果が見られました。

目的に応じて必要な情報を読み取ることや、まとまりのある文章（体験したこと・学校で普段行うこと）を書くことに課題が見られました。



2. 中学校英語（話すこと）



音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことについて成果が見られました。

まとまりのある内容（自分の好きな人物を1人とその理由、自分のまちを訪れるのにおすすめの季節とその理由）を話すことに課題が見られました。



3. 課題の見られた問題例

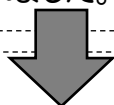
【7】日常的な話題について、目的に応じて必要な情報を読み取る問題

【18】日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話す問題

【課題】

○問われていること「料理 (cook) を手伝う」を捉えられていなかったり「Please don't arrive before～」の“don't”を読み飛ばしたり、意味を理解できなかったりすることが考えられます。また、「Please come at 10:00p.m. to cook～」を読み飛ばしていることも伺えました。

○条件①（おすすめの季節を取り上げる）は満たしているものの、条件②（理由を話す）を満たせていないという課題が見られました。



【今後の学習の中で】

☆学習活動において、書かれていることをすべて読み取ろうとするのではなく、複数の情報から、自分にとって、必要な情報とそうでない情報を取捨選択して読み取るなどの活動を取り入れた授業づくりを進めます。

☆「自分の考えとその理由を話す」「体験したこととその感想を話す」など、簡単な内容についてメモを活用せず話す活動を積極的に取り入れます。ALTの話モデルとして聞いたり、適切な伝え方や表現方法を学んだりする活動を設定し、表現力やコミュニケーションの質を向上させる授業づくりに取り組みます。

③ 質問調査から見たポイント

こどもたちの「生きる力」を育むために、
家庭・地域・学校で取り組みたい6つのポイント

1 規則正しい生活を心がけさせましょう。

2 家庭学習を習慣化させましょう。

3 読書する機会を増やしましょう。

4 地域の行事に参加・参画させましょう。

5 自分の「好き」や「したいこと」について
語り合いましょう。

6 じっくり話を聞き、しっかり認めましょう。

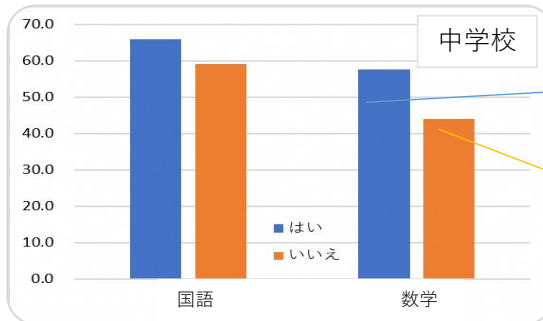
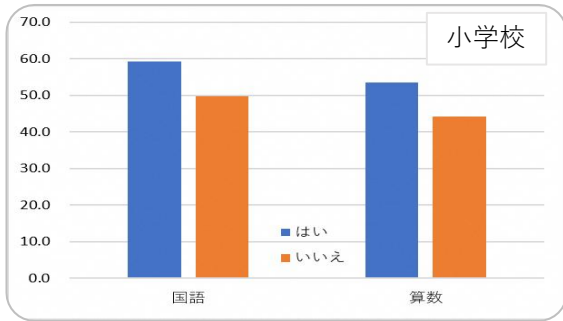
「生きる力」とは、「知・徳・体のバランスがとれた力」です。変化の激しい
これからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の
「知・徳・体」をバランスよく育てることが大切です。（文部科学省より）



①規則正しい生活を心がけましょう。

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」と学力の関係

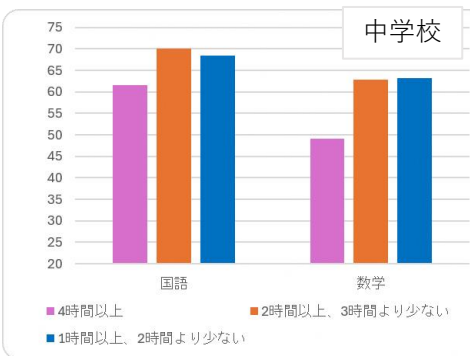
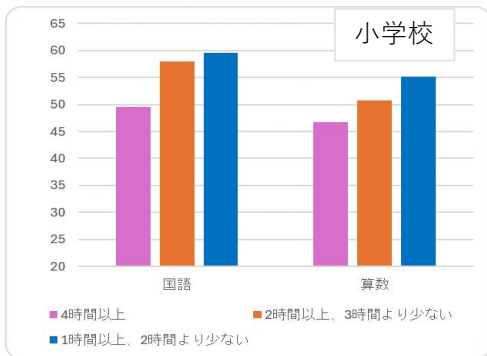
各グラフの縦軸(%)は平均正答率の割合



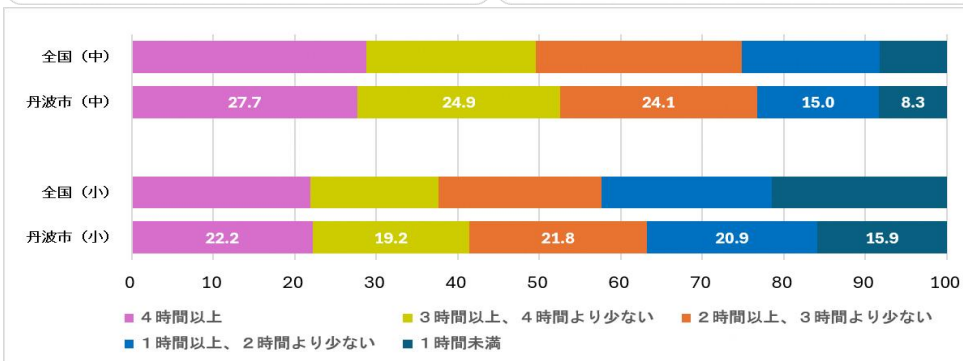
青色は、毎日、同じ時刻に寝ている児童生徒

オレンジ色は、毎日、同じ時刻に寝ていない児童生徒

「普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、PC、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか(学習に使う時間は除く)」と学力の関係

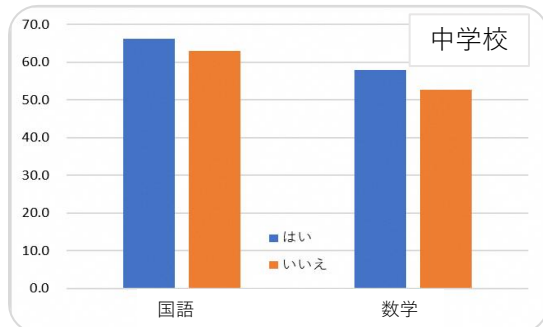
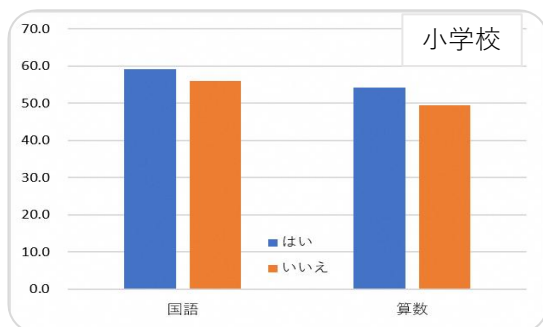


「毎日同じくらいの時刻に寝ている」児童生徒は、そうでない児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向が見られました。また、SNSや動画視聴、ゲームなどを4時間未満と回答した児童生徒も、4時間以上の児童生徒に比べ、平均正答率が高いことが伺えます。早寝・早起き・朝ごはんを心がけ、メディアとの付き合い方も振り返りながら、家庭で生活リズムを整えていきましょう。



②家庭学習を習慣化させましょう。

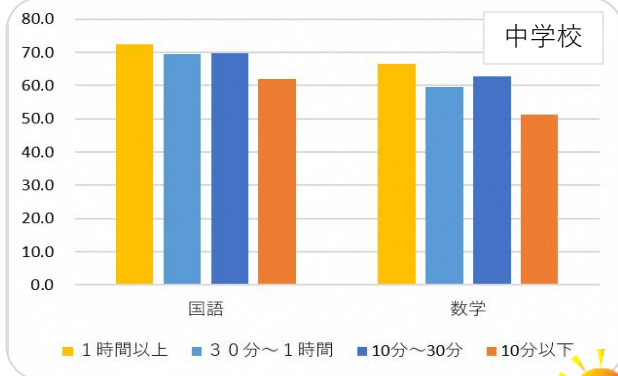
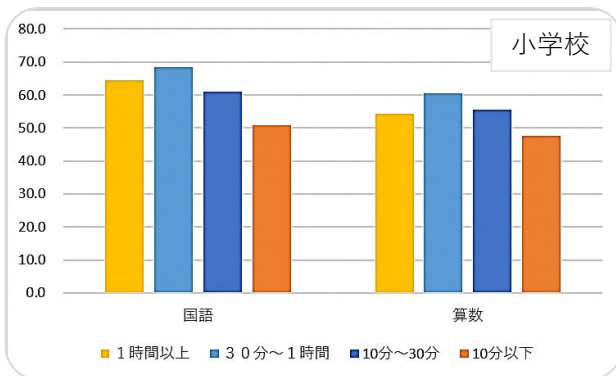
「学校が休みの日に、1日1時間以上勉強していますか」と学力の関係



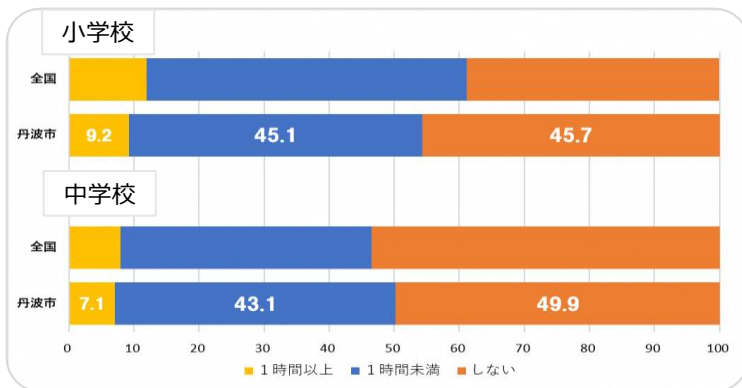
学習したことを身に付け、学ぶ力を伸ばすためには、家庭で学習する習慣を身に付けることが大切です。今回の調査では、学校が休みの日に1日1時間以上勉強している児童生徒は、そうでない児童生徒と比べ、平均正答率が高い傾向が見られました。大切なのは、長時間勉強することだけではありません。毎日少しずつでも、自分で計画を立てて学習する習慣を身に付けられるよう、家庭でも学習する時間や場所を整え、子どもたちの頑張りを見守りましょう。

③ 読書する機会を増やしましょう。

「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」と学力の関係



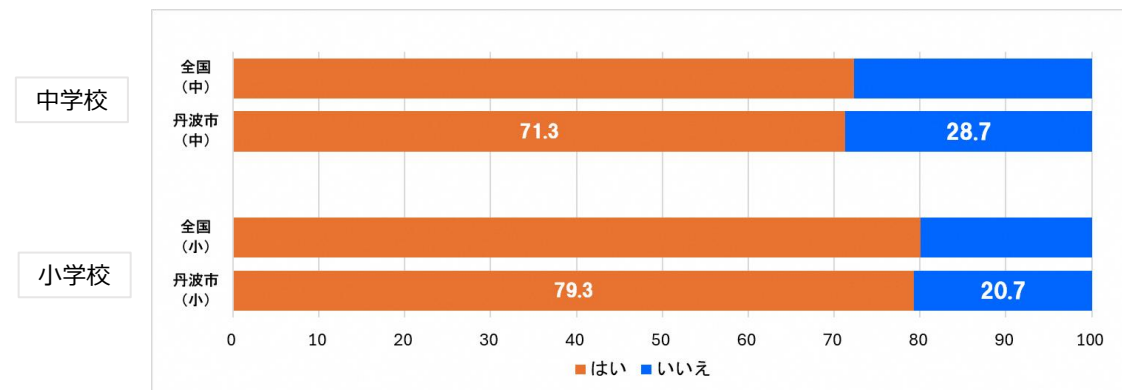
「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」



読書は、知らなかったことを知ったり、想像したり、自分とは違う考えに触れたりする大切な機会です。今回の調査では、読書をする児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られました。一方、丹波市では授業以外に読書をしない児童生徒も少なくありません。家庭でも本に親しむ機会をつくり、読書の楽しさを一緒に味わいましょう。

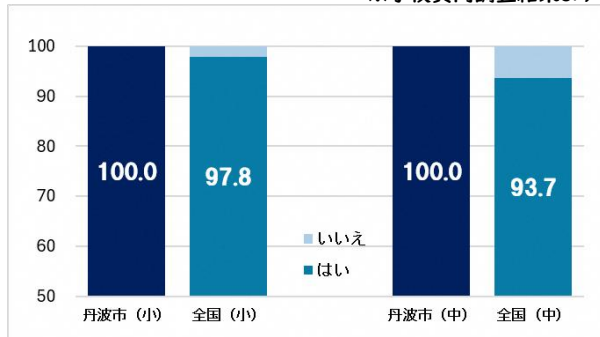
④ 地域の行事に進んで参加・参画させましょう。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」



「指導計画の作成に当たって、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか」

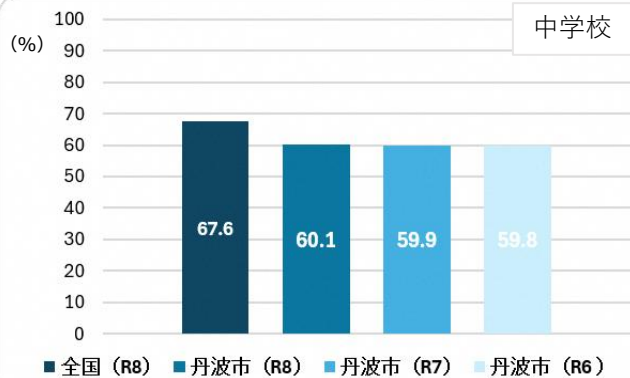
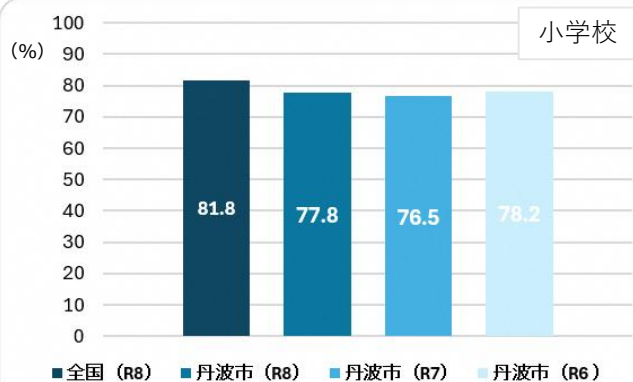
※学校質問調査結果より



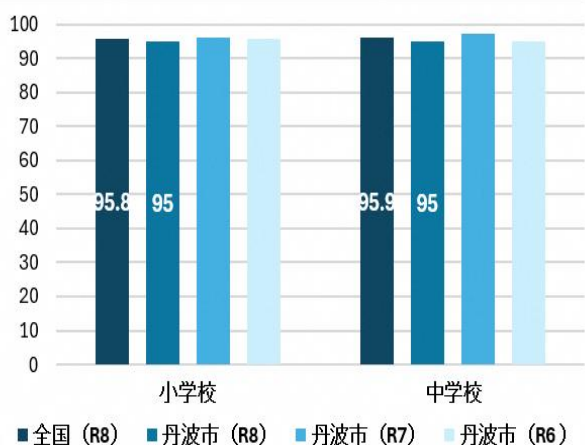
丹波市の子どもの約8割が、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と考えています。また、市内の小・中学校では、地域の人材や施設、自然などを教育活動に積極的に生かしています。子どもたちが地域に関わることは、地域の方々とふれ合い、地域のよさや課題を知る貴重な機会です。子どもたちが地域とのつながりを深め、ふるさとを大切にする心や、地域の未来を担う意識を育てられるよう、家庭や地域でも、子どもたちの参加・参画を温かく後押ししていきましょう。

⑤自分の「好き」や「したいこと」について語り合いましょう。

「将来の夢や目標を持っていますか」



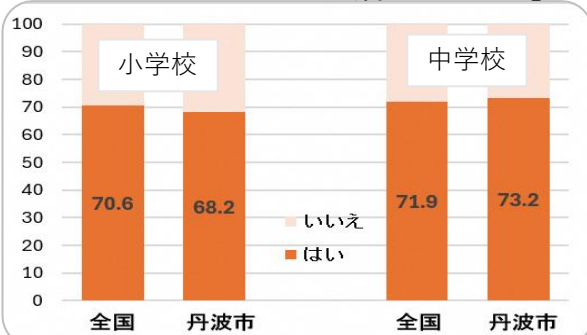
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」



「将来の夢や目標」を持っている児童生徒は、全国と比べてやや少ない状況です。一方で、「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童生徒は、約95%と高い割合になっています。将来の夢がまだ決まっていなくても、子どもたちは日々の生活の中で「好き」「得意」「やってみたい」「誰かの役に立ちたい」という思いをもっています。そうした思いを大切に受け止め、「何が好き?」「どんなことをしてみたい?」と語り合いながら、子どもの興味や挑戦を温かく応援していきましょう。

⑥じっくり話を聞き、しっかり認めましょう。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」



困りごとや不安がある時、学校の先生や身近な大人に相談できることは、子どもたちの安心につながります。悩みがあっても、すぐには話せず一人で抱えてしまうこともあります。だからこそ、日頃から子どもの話に耳を傾け、「話してくれてありがとう」「よく頑張っているね」と気持ちを受け止め、認めることを大切にしましょう。何気ない会話や温かな声を重ね、困ったときに安心して相談できる関係を、学校と家庭で一緒につくっていきましょう。

「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか」

